

■末川博 民法学者。民事法の最高権威。大学の自治・学問の自由のため<滝川事件>の端緒、<敗戦>後も平和運動。

すえかわひろし

大本教・・・1892＝ 山口県玖珂郡玖珂村で、地主で村長の末川庄橘とミキヨの次男に生まれる。

日清戦争始・・・1894＝ 2歳：

田中正造直訴1901＝ 9歳：

日露戦争終・・・1905＝13歳：

韓国併合・・・1910＝18歳：

明治天皇没・・・1912＝20歳：

民本主義・・・1916＝24歳：高等文官試験に合格して、
ロシア革命・・・1917＝25歳：_京都帝国大学法科大学卒業。大学院に進み、

ベルサイユ条約・・・1919＝27歳：同大学講師、
大暴落・・・1920＝28歳：_同助教授、
原敬首相暗殺1921＝29歳：
水平社結成・・・1922＝30歳：在外研究員として欧米に留学し、

護憲三派圧勝1924＝32歳：帰国。
治安維持法・・・1925＝33歳：_同教授となり、民法講座を担当。

共産党事件・・・1928＝36歳：

海軍軍縮条約1930＝38歳：_以降、毎年「岩波六法全書」を編集、
満州事変・・・1931＝39歳：*「権利侵害論」により法学博士となる。

国際連盟脱退1933＝41歳：_文部省が同僚の滝川幸辰の追放を通告してきたため、末川が中心となって同大学法学部教授会で学問の自由と大学の自治を守るためたたかうことに決め、<京大事件(いわゆる滝川事件)>に発展。佐々木惣一・恒藤恭らとともに辞職。大阪商科大学講師、
芥川直木賞始1935＝43歳：_以降、「民商法雑誌」の責任編集者として民事法研究の最高峰となり、特に権利侵害論や権利濫用論の研究は今日法学界の定説となっている。

日中戦争始・・・1937＝45歳：

大政翼賛会・・・1940＝48歳：_同教授となる。
日米開戦・・・1941＝49歳：
・・・1942＝50歳：比島調査委員会委員としてマニラに赴く。

敗戦・・・1945＝53歳：
新憲法公布・・・1946＝54歳：

極東裁判決・・・1948＝56歳：*立命館総長兼学長になるや、平和と民主主義の教学理念をかげ、また市民に開かれた大学をめざして立命館士曜講座を開設。。日本学術会議第1回会員(以後第5回まで)となり、「日本学術会議発足に際し科学者としての決意表明」を起草し、科学は平和と人類の福祉のために貢献すべきであると述べ、

朝鮮戦争始・・・1950＝58歳：日本学士院会員に選ばれる。
独立回復・・・1951＝59歳：
TV放送始・・・1953＝61歳：_「わだつみの像」を立命館大学校庭に建立し、

55年体制始・・・1955＝63歳：
_平和問題談話会や憲法問題懇談会を主宰するなど、平和と民主主義の実践に取り組む。

安保闘争・・・1960＝68歳：

東京リビア 1964＝72歳：

全共闘闘争・・・1969＝77歳：*立命館を退任し、名誉総長となる。
大阪万博・・・1970＝78歳：京都市名誉市民。

石油ショック1973＝81歳：
JALハイジャック・・・1977＝85歳：脳血栓のため_没した。
「権利侵害論」ほか多数の専門書と自叙伝「彼の歩んだ道」および「末川博随想全集」全9巻別冊1巻がある。

平凡社百科事典